2027年3月期第2四半期（中間期）
決算補足資料

日本ケミファ株式会社

- 2026年10月30日
- 東証スタンダード（4539）

Contents

サマリー	2–3
損益の概況	4–5
医療用医薬品の状況	6–7
ジェネリック医薬品　発売年度別売上	8
貸借対照表	9
キャッシュ・フロー推移	10
設備投資額・減価償却費 ・1株当たり情報	11
各種指標推移	12
当社の経営戦略について	13
経営戦略・3つの事業ドメイン	14
イノベーションロードマップ	15
ジェネリック医薬品事業	16
臨床検査薬事業	17
新薬パイプラインの概況	18
新薬パイプライン詳細	19–21
アルカリ化療法	22
医療用医薬品の海外展開	23

本資料における将来の予想等に関する各数値は、現時点で入手可能な情報に基づく弊社の判断や仮定によるものであり、
リスクおよび不確実性が含まれております。したがって実際の業績等は予想数値と異なる結果となる可能性があります。

サマリー①

■売上高

＜連結売上高：　15,821百万円　前年同期比△0.7%、対通期予想45.2%＞

・医療用医薬品において新薬・長期収載品の導出・輸出の伸長や近年発売したジェネリック医薬品の寄与があったものの、薬価改定の影響に加え、臨床検査薬において8月にドロップスクリーンの新製品認証取得を公表して以降、従来機器の新規設置が一時的に鈍化したこと等が影響し、前年同期比で横ばいに留まった。

・通期については、医療用医薬品・臨床検査薬ともに、売上および利益が下期に伸長する収益構造となっており、引き続き期初通期予想の達成を目指す。

①医療用医薬品：　12,363百万円　前年同期比　△0.3%、対通期予想46.3%

増収要因　・新薬・長期収載品の導出・輸出売上の拡大
　　・ジェネリック医薬品の近年発売品の伸長

減収要因　・2026年4月に実施された薬価改定（約△6%）の影響
　　・一部品目の取り扱い終了

②臨床検査薬：　2,345百万円　前年同期比△4.7%、対通期予想38.1%

ドロップスクリーンの国内設置台数拡大に伴い試薬の売上は引き続き伸長したものの、8月の新製品認証取得公表後、医療機関にて新製品の発売を待つ動きが見られ、従来機器の売上が一時的に伸び悩んだことから、前年同期比△4.7%の減収となった。

サマリー②

■利益

＜連結営業利益：　△696百万円　前年同期 122百万円＞

・売上高が前年同期比横ばいに留まる中で、薬価改定の影響や、円安の進行などによるエネルギーおよび原材料等のコストアップ、人件費の増加により原価率が上昇したことに加えて、新製品や新薬に係る研究開発費の増加も影響し、営業利益は△696百万円となった。
・通期については、新薬・長期収載品の導出・輸出や出だし好調なジェネリック医薬品の新発売品の寄与が下期以降に本格化することに加えて、ドロップスクリーン新製品も医療機関の好感触を得ており、アレルギー関連のジェネリック医薬品とともにアレルギーシーズンに向けて大きく伸長することが期待できるなど、利益品を中心に増収増益を見込んでおり、引き続き期初通期予想の達成を目指す。

■トピックス

・9月にアレルギースクリーニング機器・試薬「ドロップスクリーン」の新製品である測定機器「A-2」および試薬「KR-1」を発売。
・8月に自社開発のジェネリック医薬品イストラデフィリン錠20mg「ケミファ」の製造販売承認を取得し12月に発売予定。
・新薬パイプラインの開発が順調に進展。DFP-17729のフェーズⅡ/Ⅲ試験のうちフェーズⅡ部分の症例登録は5月に完了。
・ベトナム工場の増設投資を進めており、2028年前半に商業生産開始を予定。
・ベトナムで6月にモサプリドの販売承認を取得し販売準備中。

損益の概況（対前年同期）

（百万円）

	2026年3月期		2027年3月期			
	中間期	構成比	中間期	構成比	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率
売上高	**15,932**	**100.0%**	**15,821**	**100.0%**	**△ 110**	**△ 0.7%**
医薬品事業	15,354	96.4%	15,224	96.2%	△ 130	△ 0.8%
内、医療用医薬品 ※1	12,394	77.8%	12,363	78.1%	△ 31	△ 0.3%
内、臨床検査薬 ※1	2,460	15.4%	2,345	14.8%	△ 115	△ 4.7%
その他	577	3.6%	596	3.8%	+19	+3.3%
売上原価	**11,783**	**74.0%**	**12,205**	**77.1%**	**+421**	**+3.6%**
販売管理費	**4,025**	**25.3%**	**4,312**	**27.3%**	**+287**	**+7.1%**
内、研究開発費	1,007	6.3%	1,246	7.9%	+239	+23.8%
営業利益又は営業損失（△）	**122**	**0.8%**	**△ 696**	**－**	**△ 819**	**－**
公的資金繰り戻し後営業利益※2	206	1.3%	△ 673	－	△ 880	－
経常利益又は経常損失（△）	**48**	**0.3%**	**△ 684**	**－**	**△ 732**	**－**
親会社株主に帰属する純利益又は純損失（△）	**163**	**1.0%**	**△ 512**	**－**	**△ 676**	**－**

※１　決算短信内セグメント情報の売上高から、医療用医薬品は受託売上等を減算、臨床検査薬はその他の収益を加算しています。
※２　公的資金の支援を得て行われるNC-2800の研究開発費を営業利益に繰り戻したものです。

損益の概況（対通期予想）

（百万円）

	2026年3月期		2027年3月期			
	通期	構成比	中間期	構成比	通期予想	進捗率
売上高	**33,090**	**100.0%**	**15,821**	**100.0%**	**35,000**	**45.2%**
医薬品事業	31,868	96.3%	15,224	96.2%	－	－
内、医療用医薬品※1	25,364	76.7%	12,363	78.1%	26,690	46.3%
内、臨床検査薬※1	5,436	16.4%	2,345	14.8%	6,150	38.1%
その他	1,222	3.7%	596	3.8%	－	－
売上原価	**24,693**	**74.6%**	**12,205**	**77.1%**	－	－
販売管理費	**8,217**	**24.8%**	**4,312**	**27.3%**	－	－
内、研究開発費	2,134	6.4%	1,246	7.9%	2,650	47.0%
営業利益又は営業損失（△）	**179**	0.5%	**△ 696**	－	**250**	－
公的資金繰り戻し後営業利益※2	321	1.0%	△ 673	－	330	－
経常利益又は経常損失（△）	**227**	0.7%	**△ 684**	－	**100**	－
親会社株主に帰属する純利益又は純損失（△）	**198**	**0.6%**	**△ 512**	－	**60**	－

※1　決算短信内セグメント情報の売上高から、医療用医薬品は受託売上等を減算、臨床検査薬はその他の収益を加算しています。
※2　公的資金の支援を得て行われるNC-2800の研究開発費を営業利益に繰り戻したものです。

医療用医薬品の状況（対前年同期）

（百万円）

	2026年3月期		2027年3月期			
	中間期	構成比	中間期	構成比	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率
医療用医薬品（①+②）※	**12,394**	**100.0%**	**12,363**	**100.0%**	**△ 31**	**△ 0.3%**
①ジェネリック医薬品	11,949	96.4%	11,642	94.2%	△ 307	△ 2.6%
自社販売	11,797	–	11,299	–	△ 498	△ 4.2%
導出・輸出	151	–	342	–	+190	+125.6%
②新薬・長期収載品	445	3.6%	721	5.8%	+275	+62.0%
自社販売	356	–	270	–	△ 85	△ 24.1%
導出・輸出	88	–	450	–	+361	+406.3%
ジェネリック医薬品事業（①+③）	**12,275**	**–**	**11,955**	**–**	**△ 319**	**△ 2.6%**
③ジェネリック医薬品受託	326	–	313	–	△ 12	△ 3.8%

※　決算短信内セグメント情報の医療用医薬品売上高から、受託売上等を減算しています。

医療用医薬品の状況（対通期予想）

（百万円）

	2026年3月期		2027年3月期			
	通期	構成比	中間期	構成比	通期予想	進捗率
医療用医薬品（①+②）※	**25,364**	**100.0%**	**12,363**	**100.0%**	**26,690**	**46.3%**
①ジェネリック医薬品	24,396	96.2%	11,642	94.2%	24,700	47.1%
自社販売	23,898	–	11,299	–	24,240	46.6%
導出・輸出	498	–	342	–	460	74.5%
②新薬・長期収載品	968	3.8%	721	5.8%	1,990	36.2%
自社販売	723	–	270	–	690	39.2%
導出・輸出	245	–	450	–	1,300	34.7%
ジェネリック医薬品事業（①+③）	**25,109**	**–**	**11,955**	**–**	**25,410**	**47.1%**
③ジェネリック医薬品受託	713	–	313	–	710	44.2%

※　決算短信内セグメント情報の医療用医薬品売上高から、受託売上等を減算しています。

ジェネリック医薬品　発売年度別売上

（百万円）

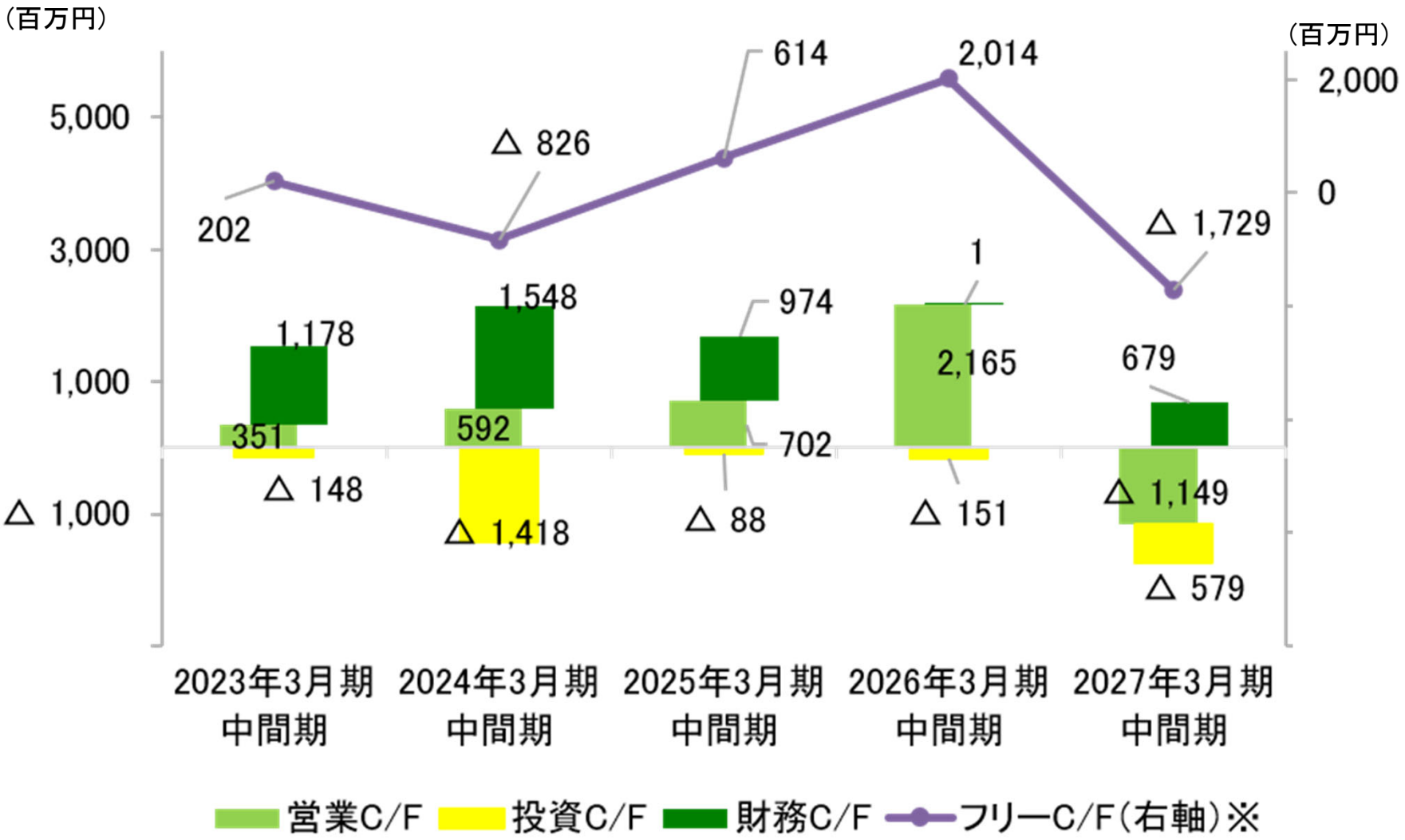
発売年度	2026年3月期 中間期	2026年3月期 構成比	2027年3月期 中間期	2027年3月期 構成比	2027年3月期 増減率	主な発売品目
2023年3月期以前	11,610	97.2%	10,710	92.0%	△ 7.8%	
2024年3月期	101	0.8%	106	0.9%	+5.2%	・アジルサルタン
2025年3月期	135	1.1%	148	1.3%	+9.8%	・ゾニサミド ・リバーロキサバン
2026年3月期	101	0.9%	459	3.9%	+350.5%	・グリメピリド「NC」 ・酢酸亜鉛 ・ラコサミド
2027年3月期	–	–	217	1.9%	–	・デスロラタジン ・ビラスチン ・ダパグリフロジン
合計	**11,949**	**100.0%**	**11,642**	**100.0%**	**△ 2.6%**	

貸借対照表

（百万円）

項目	2026年3月期	2027年3月期			
	3月末	9月末	増減額	主な増減項目と理由	
流動資産	29,941	28,667	△ 1,274	現金及び預金	△ 1,056 在庫の確保と支払サイト短縮の影響
				売掛債権	△ 1,707 前期第4四半期増収分の資金化等
				棚卸資産	+1,110 新製品の在庫確保等
固定資産	20,037	20,134	+96		
資産合計	49,978	48,801	△ 1,177		
流動負債	12,696	10,879	△ 1,817	仕入債務	△ 1,489 取適法対応に伴う支払いサイト短縮の影響
固定負債	17,772	19,038	+1,265	長期借入金	+947 年度運転資金の調達
負債合計	30,468	29,917	△ 551		
純資産合計	19,510	18,884	△ 625		
負債純資産合計	49,978	48,801	△ 1,177		

キャッシュフロー推移



※フリーC/F＝営業C/F＋投資C/F

設備投資額・減価償却費・1株当たり情報

（百万円）

	2026年3月期		2027年3月期			
	中間期	通期	中間期	増減率	通期予想	進捗率
設備投資額	388	1,196	461	+19.0%	2,310	20.0%
減価償却費	746	1,559	791	+6.0%	1,710	46.3%

（円）

	2026年3月期		2027年3月期		
	中間	通期	中間期	前年同期増減	通期予想
1株当たり純利益	45.27	54.81	△ 141.57	△ 186.84	16.60
	9月末	3月末	9月末	前年同期増減	通期予想
1株当たり純資産	5,247.90	5,382.52	5,213.44	△ 34.46	－
1株当たり配当金	－	50.00	－	－	50.00
（参考）連結配当性向	－	91.2%	－	－	301.2%

各種指標推移

	2024年3月末	2025年3月末	2026年3月末	2026年9月末
売上高売上原価率	74.8%	73.1%	74.6%	77.1%
売上高販管費率	26.8%	25.0%	24.8%	27.3%
売上高営業利益率	–	1.9%	0.5%	–
売上高研究開発費率	7.6%	7.0%	6.4%	7.9%
EBITDA（百万円）	1,391	2,018	2,013	–
流動比率(倍)	2.31x	2.45x	2.36x	2.64x
D/Eレシオ	90.5%	87.3%	79.2%	86.9%
自己資本比率	37.3%	38.4%	39.0%	38.7%
自己資本利益率（ROE）	–	1.6%	1.0%	–
売上高純利益率	–	0.9%	0.6%	–
総資産回転率※	62.7%	65.5%	66.3%	–
財務レバレッジ	265.8%	259.3%	255.8%	261.5%
配当性向	–	61.2%	91.2%	–

当社の経営戦略について

経営戦略・3つの事業ドメイン

当社グループは、時間軸の異なる「ジェネリック医薬品事業」、「臨床検査薬事業」、アルカリ化療法剤を含む「新薬事業」を3つの事業ドメインと定めて事業を多層化し、それらの事業を海外にも展開することで、企業価値最大化と持続的成長を図っています。
新たな製品展開や機能の強化を行うことで各事業ドメインの進化を図っており、2030年までに国内で独自のポジションを確立するとともに、海外での収益拡大を実現します。

ジェネリック医薬品事業
「質」を追求した特色あるジェネリック医薬品事業を展開する

臨床検査薬事業
アレルギー領域で培ったコア技術を軸に画期的製品群を展開し業容を拡大する

新薬事業
アルカリ化療法をはじめとする自社技術・ノウハウを核に画期的新薬を継続的に創製し収益化する

海外展開
3つの事業ドメインを海外市場に積極展開し世界で存在感を発揮するグループとなる

イノベーションロードマップ

ジェネリック医薬品事業の開発・製造機能強化に加え、ドロップスクリーン新製品や競争優位性のあるジェネリック医薬品の展開、順調に開発が進展している新薬パイプラインの順次収益貢献と、積極的な海外展開を推進します。

事業ドメイン		取組内容	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030
ジェネリック医薬品		競争優位性のある製品開発	開発： 他社優位性・特徴ある製品開発					年間3～4品目の自社開発品上市を目指した体制強化に着手				
			製造能力（含む新薬）：2026年度24億錠→ベトナム工場増設投資で2028年度27億錠へ　他社連携も活用し能力強化/効率化を推進									
臨床検査薬		ドロップスクリーン国内外市場/新領域展開	国内展開　累計設置台数1,900台超（2026年9月末）/　新製品A-2、KR-1を発売、測定試薬のシリーズ化									
										海外への輸出開始		～順次拡大
新薬	アルカリ化療法	DFP-17729 フェーズⅡ/Ⅲ試験開始	膵臓がんフェーズⅠ/Ⅱ　評価・検討				フェーズⅡ/Ⅲ開始				申請・承認・上市	
		CKD関連適応拡大検討	臨床データ解析/基礎データ追加			2024年より開始された臨床研究の成果を適応拡大の可能性につなげる						
		健康食品・保健機能食品等	2024年度に1品目上市済					健康食品等2品目の上市			健康関連商品順次上市	
	アルカリ化以外	NC-2800 フェーズⅡaの開始と導出	オプション契約	AMED CiCLE事業によるフェーズⅠ			フェーズⅡaの開始			導出先によるフェーズⅡb/Ⅲの実施		
		NC-2600 適応を広げての導出	神経障害性疼痛/慢性咳嗽/炎症性腸疾患等をターゲットとした早期の導出							導出先による臨床試験の実施		
		DFP-14323 フェーズⅢ実施	肺がん　フェーズⅡ完了			フェーズⅢ実施					申請・承認・上市	
		新規候補化合物の創製	新規テーマ創出とリード化合物の創製・最適化						前臨床/導出		継続してテーマを創出	
海外展開		製品輸出と現地開発/製造	ASEAN・中国・中東・アフリカ				4ヵ国8品目（2025年度）→		5ヵ国14品目（2028年度）		販売国・品目数の拡大	

ジェネリック医薬品事業

競争優位性のある品目を継続的に上市するべく、開発体制の強化を進めています。また、自社グループの設備増強と企業間連携により製造能力の強化・効率化を進め、安定供給体制を強化していきます。
事業の前提となる「品質第一」の徹底と体制強化にも不断に取り組んでいます。

＞競争優位性のある品目の継続的な上市

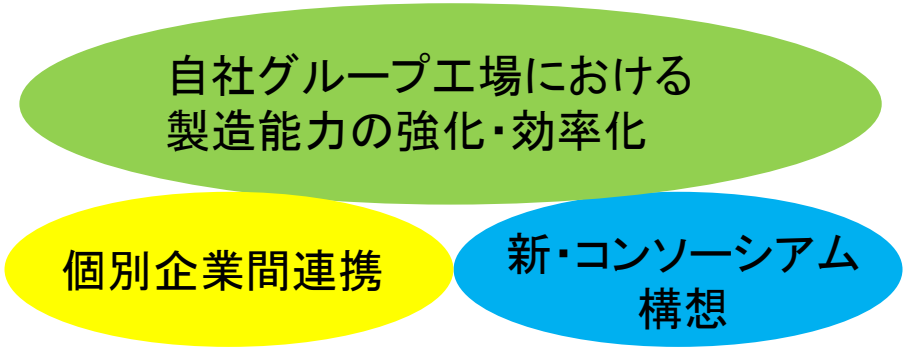
- 2026年6月に3成分4品目を上市。中でも自社開発品であるデスロラタジン錠は競合が少ない中での発売となった。
  近年発売品の収益貢献が増加傾向に。
- AGの薬価上の位置付け変更に対応した、開発体制の強化に着手。
- 2027年1月より去痰剤ムコソルバン®を承継、ジェネリック医薬品との相乗効果を見込む。

＞品質保証体制の継続的な強化

- グループ内外の製造所（原薬、製剤）に対し、定期的な各種法令等の遵守状況確認による製造管理および品質管理を実施。
- 品質文化醸成のための取り組みを継続。

＞安定供給体制のさらなる強化

- ベトナム工場の増設投資を決定し、2028年前半の商業生産開始を目指し準備を進める。
- 2026年5月に製品の出荷を開始したつくば工場3号棟2階新設備の早期稼働最大化を図る。
- 個別企業間の連携や新・コンソーシアム構想等を通じた製造の集約と効率化を進めている。



臨床検査薬事業

本年9月にドロップスクリーン新製品を発売し、より迅速な検査結果の提供が可能となりました。
新製品を中心に国内市場でのさらなる販売拡大に注力するとともに、海外展開の準備を進めています。

＞国内累計設置台数

- 2026年9月末時点で1,900台超（従来品＋新製品）

＞新製品の特徴

- 新規測定機器「ドロップスクリーンA-2」および新試薬「ドロップスクリーン 吸入アレルゲン KR-1」を2026年9月に発売。
- 従来製品における「指先からの少量採血で、多数項目のアレルゲンを同時に測定可能」という特徴を承継。
- ユーザーからの要望が多かった総IgEを含む20項目（総IgE+吸入系アレルゲン19項目）を15分で測定可能に。



ドロップスクリーンA-2（右）と測定試薬KR-1（左）

＞従来品との比較

	A-1	A-2	
採血方法	指先採血による検査		
測定可能な試薬	ST-1（吸入系・食物系などのアレルゲン41項目）		KR-1（総IgE＋吸入系19項目）
測定時間	30分	26分	15分

＞今後の展開

- 今後も医療現場のニーズを捉えた試薬ラインナップや新製品の継続的な市場投入を目指す。
- 海外展開に向けた製品開発や各国の法規制対応、パートナー候補企業との協議も進めている。

新薬パイプラインの概況

NC-2800はフェーズⅡa臨床試験の症例登録が進められています。DFP-17729のフェーズⅡ/Ⅲ試験は、2026年5月にフェーズⅡ部分の症例登録が完了しました。

自社開発　他社とのアライアンスによる開発　導出先において開発中

2026年9月末時点

開発番号	作用機序（ターゲット）	前臨床	フェーズⅠ	フェーズⅡ	フェーズⅢ
NC-2500	XOR阻害薬（痛風・高尿酸血症）				
NC-2600	P2X4受容体拮抗薬（疼痛・咳嗽・炎症性腸疾患）				
NC-2700	URAT1阻害薬（痛風・高尿酸血症）				
NC-2800	δオピオイド受容体作動薬（うつ・不安）				
DFP-17729	がん微小環境改善剤（膵臓がん）				
DFP-14323	抗がん剤候補経口剤（非小細胞肺がん）				
カルバン	$\alpha_1\beta_1$遮断剤（ハンチントン病他）				

新薬パイプライン詳細ー自社開発①

NC-2500（XOR 阻害薬）

開発段階	対象疾患	創製	導出先企業
フェーズⅠ終了	痛風・高尿酸血症	当社	南京寧和衡信製薬有限公司（中国）
特徴		**その他**	
・XOR阻害作用により尿酸生成を抑制する。 ・フェーズⅠにおいて、血中尿酸値を徐々に低下させることで、治療中に生じる急性痛風発作の問題改善につながる可能性が示唆された。		・2023年に痛風・高尿酸血症を対象に南京寧和衡信製薬有限公司とライセンス契約を締結、中国国内での治験実施に向けた準備が進められている。 ・神経変性疾患への効果を示す基礎データが得られており同疾患をターゲットとした展開も検討中。	

NC-2600（P2X4 受容体拮抗薬）

開発段階	対象疾患	創製	共同開発機関
フェーズⅠ終了	神経障害性疼痛・慢性咳嗽・炎症性腸疾患	当社を含む2者共同研究	非開示
特徴	**その他**		
・P2X4受容体を抑制するというユニークな作用機序を有する。	・in vivo試験で慢性咳嗽に対する有効性が確認され、味覚障害などの副作用がない新しい機序の治療薬として可能性を探る。 ・2024年7月にイタリアのピサ大学から炎症性腸疾患に対し、同年10月には鳥取大学から子宮内膜症に対し、効果が期待できる論文が発表される。 ・国内外で積極的な導出活動を展開中。		

新薬パイプライン詳細ー自社開発②

NC-2700（URAT1 阻害薬）

開発段階	対象疾患	創製	共同開発機関
非臨床終了	痛風・高尿酸血症	当社を含む3者共同研究	—

特徴	その他
・URAT1阻害作用により、尿酸の体外への排泄を促進する。	・酸性尿の改善効果がin vivo試験で確認されており、既存薬の課題である尿中での尿酸結晶析出による腎結石や腎毒性のリスクを低減させる可能性を有している。

NC-2800（δオピオイド受容体作動薬）

開発段階	対象疾患	創製	共同開発機関
フェーズⅡa	うつ・不安	当社を含む4者共同研究	住友ファーマ株式会社

特徴	その他
・δオピオイド受容体をターゲットとし、モノアミン仮説を基にした既存薬とは異なる作用機序を介して情動を調節し、安全性と有効性のバランスに優れていることが示唆されている。	・2017年度のAMEDの医療研究開発革新基盤創成事業（CiCLE）に採択。 ・2023年度にフェーズⅠ終了、2024年10月にその結果を含むマイルストーンに対しAMEDからプログラムの継続承認を得る。 ・2026年1月より、うつ病患者を対象としたフェーズⅡa臨床試験の症例登録が開始された。国内27施設において、登録が進められている。

新薬パイプライン詳細ー導入

DFP-17729（がん微小環境改善剤）

赤文字が今回の更新箇所

開発段階	対象疾患	創製	開発機関
フェーズⅡ/Ⅲ	膵臓がん	Delta-Fly Pharma株式会社	Delta-Fly Pharma株式会社

特徴	その他
・微小環境をアルカリ化することで、がん細胞の活動が抑制され、併用する抗がん剤の効果が出やすくなる。	・当社が日本国内での独占的販売権と国内で販売するための独占的製造権を獲得している。 ・フェーズⅡ/Ⅲ試験が国内16施設で進められており、2026年5月にはフェーズⅡ部分の症例登録が完了している。 ・膵臓がんについては2028年ごろには承認申請できるものと期待しており、将来的には他のがん種への適応拡大も検討していく。

DFP-14323（抗がん剤候補化合物）

赤文字が今回の更新箇所

開発段階	対象疾患	創製	開発機関
フェーズⅢ	EGFR遺伝子変異陽性非小細胞肺がん	Delta-Fly Pharma株式会社	Delta-Fly Pharma株式会社

特徴	その他
・アミノペプチダーゼNと結合することで、がん患者の免疫応答を強め、標準的な抗がん剤の投与量を減らした上で、副作用を増強することなく効果を高めることが示唆されている。	・当社が日本国内での独占的販売権を獲得している。 ・2024年2月よりフェーズⅢが開始され、国内約30施設で症例登録が進行中、2029年ごろまでには承認申請されるものと期待している。 ・フェーズⅡ試験の有効性および安全性の結果が、2026年9月1日付で国際学術誌にオンライン掲載された。

アルカリ化療法

「ウラリット」で長年培ったアルカリ化に関する技術や知見を活かして、がんや慢性腎臓病（CKD）、健康食品等、幅広い用途での展開を図っています。

＞アルカリ化療法の応用

がん

がん微小環境改善剤
・DFP-17729は膵臓がんを対象として開発中。
・国内16施設でフェーズⅡ/Ⅲ試験が進められており、2026年5月にフェーズⅡ部分の症例登録が完了している。

抗がん剤誘発性末梢神経障害の予防・治療
・富山大学と実施した共同研究の成果が2025年4月に学術誌へ掲載された。

CKD

慢性腎臓病進展抑制
・2024年7月より名古屋大学において医師主導臨床研究が開始され、症例登録が進行中。

食品

健康食品・保健機能食品
・これまでの研究で得られた成果をもとに、健康食品等としての製品化や、さらなるエビデンス取得を目指して取り組んでいる。

医療用医薬品の海外展開

ベトナム工場での製造品目が順調に拡大しているとともに、海外での販売についても、各国での販売品目および販路拡大の取り組みを進めています。

＞ベトナムでの取り組み

- 当社グループの海外生産拠点であるNippon Chemiphar Vietnam Co., Ltd.のベトナム工場では、同工場のコスト競争力を活かせる品目を中心に国内工場からの製造移管が進んでおり、追加の設備投資に着手した。
- 2026年9月末時点で自社グループ製販品9製品の製造を行っており、他社製販品の製造受託数も拡大している。
- 現在ベトナム国内で4製品の販売承認を得ている。さらなる承認取得を図るとともに、近隣国も含めた販売チャネルの開拓も一層強化していく。

＞海外での販売状況

- 2026年9月末時点でベトナムを含む4ヵ国において8品目を販売中。2028年度までに5ヵ国14品目の販売を目指す。
- 中東およびアフリカ市場への展開に向け、対象国およびパートナーを絞り込み、現地で販売する具体的な複数品目について交渉を進めている。

国・地域	販売中の製品
ベトナム	レバミピド、フェブキソスタット
中国	カルバン、エピナスチン、ベニジピン
–うち、香港	シロスタゾール
韓国	ソレトン
タイ	ウラリット

本資料に関するお問い合わせ先
日本ケミファ株式会社　経営企画部（広報チーム）
Tel　03-3863-1211　　E-mail　ir@chemiphar.co.jp

本資料における将来の予想等に関する各数値は、現時点で入手可能な情報に基づく弊社の判断や仮定によるものであり、リスクおよび不確実性が含まれております。したがって実際の業績等は、予想数値とは異なる結果となる可能性があります。